

表-9 主な医療材料使用料

表-9 (1) 造影剤

	商品名	規格・容量	包装単位	購入数量(箱)
先発	イオパミロン注300シリンジ	61.24% 100mL	5筒	40
先発	イオパミロン注370シリンジ	75.52% 80mL	5筒	13
先発	イオパミロン注370シリンジ	75.52% 100mL	5筒	120
後発	イオパミドール300注シリンジ50mL「F」	61.24% 50mL	5筒	4
後発	イオパミドール300注シリンジ80mL「F」	61.24% 80mL	5筒	37
後発	イオパミドール300注シリンジ100mL「F」	61.24% 100mL	5筒	1
後発	イオパミドール370注シリンジ100mL「F」	75.52% 100mL	5筒	1
後発	イオパミドール370注50mL「F」	75.52% 50mL	5V	2
後発	イオパミドール370注100mL「F」	75.52% 100mL	5V	23
後発	イオプロミド300注シリンジ100mL「BYL	62.34% 100mL	5筒	37
後発	イオプロミド370注シリンジ100mL「BYL	76.89% 100mL	5筒	72
後発	イオプロミド300注シリンジ100mL「FRI」	62.34% 100mL	5筒	13
後発	イオプロミド370注シリンジ100mL「FRI」	76.89% 100mL	5筒	12
先発	イオメロン350注シリンジ75mL	71.44% 75mL	5筒	54
後発	イオヘキソール300注50mL「F」	64.71% 50mL	5V	4
後発	イオヘキソール300注100mL「F」	64.71% 100mL	5V	4
先発	オムニパーク300注シリンジ100mL	64.71% 100mL	5本	39
先発	オムニパーク350注シリンジ100mL	75.49% 100mL	5本	59
先発	ピリスコピン点滴静注50	10.55% 100mL	1V	1
先発	フェリセルツ散20%	600mg	20包	12
先発	マグネスコープ静注38%シリンジ10mL	37.695% 10mL	5筒	14
先発	ガドピスト静注1.0mol/Lシリンジ7.5m	60.47% 7.5mL	5筒	30
先発	マグネスコープ静注38%シリンジ13mL	37.695% 13mL	5筒	19
先発	マグネスコープ静注38%シリンジ15mL	37.695% 15mL	5筒	10
先発	EOB・プリモビスト注シリンジ	18.143% 10mL	5筒	8
	バリエース発泡顆粒	5g	80本	4
	バリトゲンHD	300 g	30本	11
	ガストログラフィン経口・注腸用	100mL	1本	90
	ウログラフィン注60%	60% 20mL	5A	141
	リピオドール480注10mL	10mL	5A	4

表-9(3) 放射性医薬品

放射性医薬品名	購入量(本)
99mTc-ECD	0
99mTc-HAS-D	1
99mTc-MDP・HMDP	341
99mTc-MIBI	21
99mTc-MAG	0
99mTc-O4-	86
99mTc-TF	45
131I-Adosterol	0
123I-ダットスキャン	7
123I-MIBG	6
123I-BMIPP	65
123I-IMP	6
201Tl-Chloiride	66
67Ga-Citrate	0
111In-オクトレオスキャン	0
Na123I-カプセル	0
合計	644

表-9(4) 放射性医薬品標識化合物

商品名	使用量(本)
テクネMAAキット	12
テクネフチン酸キット	54
テクネピロリン酸キット	4
合計	70

表-9 (2) 画像出力

種類	枚数
DRY 半切	48
DRY B4	88
CD	2,743

表-10 休日・夜間 患者人数

	2021年度	前年比	2020年度	2019年度
休日外来 (8:30~17:00)	836	0.54	1,560	1,214
休日入院 (8:30~17:00)	1,182	0.64	1,833	1,372
小 計	2,018	0.59	3,393	2,586
夜間外来	2,376	0.64	3,707	3,305
夜間入院	624	1.09	570	646
小 計	3,000	0.70	4,277	3,951
合 計	5,018	0.65	7,670	6,537

3 検査科・病理診断科

[人事など]

2021年度の検査科は岩田部長、杜部長、品川専任部長の3名部長体制でスタートしました。人事には変動無く、常勤臨床検査技師22名、会計年度任用職員10名、委託職員（受付・洗浄）2名で業務を行いました。2020年12月から正職員1名の病休が続いており、人力的に厳しい状況でしたが、職員一丸となり、業務に支障をきたす事態の無いように努めました。

COVID-19検査では、抗原定量検査を中心にPCR検査も含め24時間356日体制で迅速に対応し、当院新型コロナウイルス感染症診断の主軸となっています。職員のCOVID-19感染フォローを外来および対象職員の負担をかけず行うため唾液による抗原定量検査もスタートさせました。また検査科全体の取り組みとして12月から医師やベッドサイドの負荷を減らすべく、病棟・外来からの搬送に加えて、検査技師による予約入院患者の抗原検査検体採取を開始しました。

検査業務に関連する全てのシステム（検体検査・採血支援・輸血関連・細菌検査・病理検査・生理部門・心電図等管理）を更新しました。細菌・病理・輸血の各システムでは従来のシステムから専門メーカーのシステムに変更しました。当初はトラブルも数件発生し、臨床にご迷惑をおかけすることもありましたが、半年を経た現在では安定的に稼働しています。

コロナ関連で3演題の学会発表と2題の論文投稿を、細菌検査関係で1題の論文投稿を、超音波関係で4題の学会発表を行いました。単年度の発表数は当検査室では最多で、研究心の向上を伺わせる嬉しい結果となりました。

検査件数はコロナ禍前に比して約83%、前年度比較98%と低調な状況でした。

	2019年度	2020年度	2021年度
検査総件数	1,666,669	1,412,266	1,387,885
外来総件数	1,196,954	1,021,214	1,032,908
入院総件数	469,715	391,052	354,977
外来/総件数比率	0.72	0.72	0.74

[採血室]

採血支援システムと同時に採血管準備装置も更新しました。12年間使用した従来機に比べると改善点が多々あり、スムーズな採血室運営の一助を担っています。

採血者数に関しては、昨年とほぼ変わらない状態でした。

引き続き、感染対策と患者様の苦痛を極力減らせる努力を続けてきました。

	2019年度	2020年度	2021年度
年間採血者数（人）	60,625	52,880	53,072
日平均患者数（人）	252.6	217.6	219.3

[検体検査]

COVID-19検査では全自動化学発光酵素免疫測定装置(ルミパルス)を24時間365日フル稼働で対応しました。PCRとほぼ同等の精度を保ちながら、分析時間が短く、大量に対応可能、更に同じ検体で同時にインフルエンザの検査も行えるというメリットもあり、大いに活用することができました。しかしCOVID-19検査は前年度に比して減少し、今後もこの傾向は続く予想されます。ルミパル

スは汎用免疫学的自動検査装置であるため、今後この装置をいかに有効に利用するかが今後の課題です。

採血管準備装置の更新に合わせ、RFID 運用に変更しました。従来採血管一本一本にバーコードリーダーを当てて、検体到着作業を行っていたものが、トレイごとに到着作業を行う事ができるようになりました。これにより特に早朝病棟分の検査結果報告時間が早くなると共に、同じ依頼なのに1本だけ未到着であるような事態も迅速にわかるようになりました。

病棟の閉鎖、手術件数の制限、外来の制限などが大きく響き検査件数は一般検査、血液学的検査、生化学・免疫学的検査、輸血検査の全ての分野で回復せず、コロナ禍前の前々年度を大きく下回ったままでした。

委託検査については、入札による価格改定と、血液内科の川崎病院移転に伴う高額検査項目依頼の減少の影響もあり金額、委託費共に大幅な減少となりました。

	2019年度	2020年度	2021年度
一般検査	77,998	63,672	60,786
血液学的検査	175,056	153,061	147,151
生化学・免疫学的検査	1,326,667	1,125,322	1,114,492
輸血検査	8,158	7,249	6,190
検体合計	1,587,879	1,349,304	1,328,619

	2019年度	2020年度	2021年度
委託検査			
件数	36,249	31,900	30,078
金額	65,443,391	65,674,000	50,707,986

【生理検査】

生理検査技師支援システム・画像管理システム・心電図等管理システムの更新を行いました。従来との大きな違いは無く順調に稼働しました。これに合わせて肺機能検査装置との患者情報連携を行い、患者情報の入力ミス等の問題が解決しました。

検査件数は検診業務がある程度復活した影響もあり、前年度より増加しましたが、2019年度比81%と完全な回復とは言えない状況です

心臓領域で1名・表在領域で1名が超音波検査士を取得しました。臨床の要望に応えられ、信頼される報告ができるように努めていきます。

	2019年度	2020年度	2021年度
循環器機能検査	15,609	13,247	13,243
脳・神経機能検査	280	199	187
呼吸機能検査	3,103	1,527	1,645
前庭・聴力機能検査	2,163	1,293	1,286
超音波検査	7,973	6,338	7,301
生理合計	29,128	22,604	23,662

【細菌検査】

COVID-19 の流行は 2021 年度に入っても継続し、7 月末からの第 5 波、1 月からの第 6 波を受けコロナ抗原定量検査の数は大きく伸びました。職員の COVID-19 感染フォローを中心に唾液検体による抗原定量検査もスタートさせました。

入院制限や結核病棟閉鎖の影響を受け一般細菌検査・抗酸菌検査は減少しました。

検査以外においては、検査技師による鼻腔検体採取が 12 月から開始されるにあたり、マニュアルの整備、技師の教育、関係部署との調整を行いました。11 月には、細菌検査システムの更新が行われ、臨床への影響を最小限にとどめるよう、また業務の効率化を目指し尽力しました。

2021 年度も院内の感染症対策ならびに抗菌薬適正使用に取り組み、他施設との相互ラウンドや KAWASAKI 感染協議会のサーベイランス事業など、地域での感染対策活動にも積極的に参加しました。

認定微生物技師を 1 名が取得し、今後も、精度保証がなされた検査結果を臨床に提供すべく知識・技術・能力向上に取り組んでいきたいと思っております。

	2019 年度	2020 年度	2021 年度
一般細菌検査	28,098	23,726	210,44
抗酸菌検査	6,943	3,338	3294
微生物その他	393	259	235
院内 PCR	-	279	65
コロナ抗原定量	-	3,694	1,0249
細菌合計	35,434	31,296	34,887

【病理診断科】

2021 年度は病理診断科部長の杜雯林と病理専任部長の品川俊人との常勤病理医 2 名、病理加算 II の態勢で病理診断業務が遂行されました。細胞検査士 4 名、(うち国際細胞検査士 2 名)および細胞診専門医 2 名で非常に充実した細胞診断体制を維持しています。2021 年 2 月に佐藤弘康技師が臨床検査学会認定病理検査技師資格を取得しました。

2021 年度は COVID-19 が引き続き流行し、病理検体数は流行前のレベルには回復していません。病理組織診断は前年度の 99.5%で微減し、細胞診は前年度の 104.3%、電子顕微鏡検査は前年度の 111%で微増でした。解剖件数は 6 件で前年度よりは減少しています。

CPC は 5 回開催し、呼吸器がんボードと外科病理カンファレンスにそれぞれ 4 回参加しました。COVID-19 の影響で地域関連病院のスタッフを交えた乳腺外科カンファレンスは中止していました。COVID-19 の影響で実習生研修を行いませんでした。

2021 年 11 月に病理コンピューターシステムの更新が施行され、標本作製多重チェック機能や報告既読チェック機能を新たに加えて運行しています。

病理検査部門	2019年度	2020年度	2021年度
細胞診検査	4,331	3,460	3611
病理組織検査 依頼数	3,500	2,831	2879
臓器数	4,144	3,303	3316
ブロック数	15,085	12,451	12677
迅速凍結組織検査	144	130	81
電子顕微鏡検査	16	9	16
病理解剖	5	9	6
免疫染色件数(標本枚数)	847(5,242枚)	782(4,663枚)	539(3,476枚)

[輸血製剤管理]

2021年度は血液内科の川崎病院への移転と新型コロナウイルス感染症流行の影響で前年度比は、輸血単位数は51.2%輸血実施人数は66.5%と大幅に減少しました。

血液製剤使用量(単位数)	2019年度	2020年度	2021年度
赤血球製剤	2,420	2,341	1922
新鮮凍結血漿	324	97	142
濃厚血小板製剤 (HLA適合製剤、洗浄製剤含)	5,545	5,255	1820
自己血CPD	126	103	109
輸血単位数合計	8,415	7,796	3993
輸血実施人数	683人	647人	430人

[夜間・休日検査]

新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、夜間・休日帯の検査総件数は前年度比97.5%、コロナ禍前の2019年度と比較し74.7%と大幅に減少しました。検査総数は減少しましたが、新型コロナウイルス関連検査や感染患者への心電図など、日当直者には負担の大きい1年となりました。

夜間休日検査	2019年度	2020年度	2021年度
総件数	12,102	9,270	9040

[チーム医療への参加]

ICT・NST・糖尿病教育などに積極的に参加しました。また院内全ての心電計・超音波診断装置・血液ガス分析装置の保守管理を行い、機器の安定稼働に努めました。血液ガス分析装置については院内全ての装置を検査室で常時監視しデータ管理及び機器管理を行い、各機器の不具合に迅速対応できるようにしています。

[教育・研修]

各専門分野でレベルアップのため科内研修会・R-CPC・メーカーを招いての勉強会を開催、また各技師が積極的に学会・研修会へ参加しました。

菊池眸が認定臨床微生物検査技師、西岡夢実・宮武環が超音波検査士、高橋加奈子が認定

POC コーディネーター、佐藤弘康が臨床検査学会認定病理検査技師2級に合格しました。

例年、臨床検査技師実習生4名程度の受け入れをしてきましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、2021年度の臨地実習を中止しました。初期研修医クルズスは“検査全般”、“輸血検査”、“病理検査”、“細菌検査”について行いました。

佐藤弘康が臨床検査技師を目指す学生のために、北里大学保健衛生専門学院（新潟）にて講演を行いました。

（文責 検査科担当課長 佐野 剛史）

4 リハビリテーションセンター

今年度も高齢患者様を中心に、急性期から亜急性期のリハビリテーションを実施いたしました。診療科別の依頼は、内科23%、呼吸器内科15%、整形外科14%、腎臓内科12%、循環器内科・緩和ケア内科8%、外科6%、糖尿病内科5%、その他9%でした。平均年齢は83.0歳でした。

人事では、今年度より室長として配属の整形外科部長水谷憲生先生のもと、佐藤恭子先生が兼任を継続し、川崎病院リハビリテーション科部長の阿部玲音先生も継続して兼任され、定期的なアドバイスをいただきました。また、4月に理学療法士の笹野健が入職し、今年度末で理学療法士の斎藤由里が退職しました。

今年度の疾患別リハビリテーションの実施件数は以下のとおりです。地域包括ケア病棟のリハビリテーションは入院診療料に包括されるため、単位数のみを示しています。

	2021年度	2020年度	2019年度
運動器リハビリⅠ	7,228	6,108	6,295
脳血管リハビリⅡ	1,193	1,250	1,409
廃用症候群リハビリⅡ	9,318	9,286	14,747
呼吸器リハビリⅠ	12,191	11,113	2,029
がん患者リハビリ	694	982	1,310
摂食機能療法	1,177	1,685	2,305
地域包括ケア病棟	11,317	16,471	16,928
その他	1,779	1,942	1,086
合計	44,897 単位	48,837 単位	46,109 単位
早期加算 14日	14,774	12,732	10,794
早期加算 30日	24,211	21,443	18,218
評価/指導	410	421	1,391

（文責 リハビリテーションセンター課長補佐 新宮 砂織）

<理学療法>

2021年度、理学療法の新規処方数は、1650件（入院1553件、外来97件）でした。総実施単位数は、25709単位（入院25687単位、外来22単位）でした。

総実施単位数の内訳は、脳血管疾患等リハビリテーション702単位（2.7%）、廃用症候群リハビリテーション6238単位（24.0%）、運動器リハビリテーション6121単位（23.0%）、呼吸器リハビリテーション4869単位（18.9%）、がん患者リハビリテーション444単位（1.7%）、地域包括ケア病棟6672単位（25.9%）、その他663単位（2.5%）でした。

（文責 リハビリテーションセンター主任 箭内 健治）

<作業療法>

2021年度、作業療法の新規処方数は384件（入院363件、外来21件）でした。総実施単位数は5936単位（入院5860単位、外来76単位）となりました。

総実施単位数の内訳は、脳血管疾患等リハビリテーション347単位（5.8%）、廃用症候群リハビリテーション966単位（16.3%）、運動器リハビリテーション1052単位（17.7%）、呼吸器リハビリテーション599単位（10.1%）、がん患者リハビリテーション6単位（0.1%）、地域包括ケア病棟2804単位（47.3%）、その他161単位（2.7%）でした。

（文責 リハビリテーションセンター 神野 志保）

<言語・摂食機能療法>

2021年度の新規処方数は690件（入院689件、外来1件）で、内訳は（重複障害を含む）摂食嚥下障害683件、構音障害6件、失語症8件、高次脳機能障害7件、音声障害1件でした。摂食嚥下障害の評価としてVF（嚥下造影）は150件、VE（嚥下内視鏡検査）は85件施行しました。今年度も新型コロナウイルス感染症のため、VEやVFの実施には制限がありましたが、可能な範囲で施行しました。また、今年度7月より摂食嚥下支援加算の算定を開始しました。多職種でのカンファレンスを施行し、219件の算定を行うことができました。今後も多職種との連携を強化し、協同してリハビリを実施していきたいと考えます。

（文責 リハビリテーションセンター担当係長 谷内田 綾）

<心理療法>

2021年度の心理療法総実施件数は509件（外来252件、入院257件）でした。

総実施件数の内訳は、心理検査198件（39%）、心理面接275件（54%）、糖尿病グループ面接36件（7%）でした。

（文責 リハビリテーションセンター 福島 沙紀）

5 内視鏡センター

川崎市立井田病院内視鏡センターは内視鏡検査ブース6室（X線透視室1室を含む）+ 回復室8ベッド・前処置専用室・患者ロッカールーム・診察室2室を備えた編成にて運用されています。

2021年度には日本消化器内視鏡学会指導医1名、専門医4名の指導のもと上部消化管内

視鏡 4062 件、下部消化管内視鏡 1360 件、膵胆道系内視鏡 97 件、気管支鏡 87 件が施行されました。COVID19 の患者受け入れ・病棟制限・診療制限などの影響で例年の内視鏡件数の約 80% の施行件数でしたが、咽喉頭表在癌の内視鏡治療(内視鏡的咽喉頭手術:ELPS)、食道・胃・大腸の早期癌内視鏡治療(ESD/EMR)、内視鏡的胃瘻増設術、食道静脈瘤治療、内視鏡的止血術、胆道結石除去術、胃十二指腸静脈瘤治療、難治性癒痕狭窄に対する癒痕切除術などを積極的に行い良好な成績を出してきました。川崎市立井田病院内視鏡センターは内視鏡機材の更新、スタッフドクターの増員、検査ブースの拡張などにより消化管領域の画像強調拡大観察機能の強化に伴いほぼすべての内視鏡診断と治療が可能となり、特に咽喉頭・食道領域では日本の最先端の診断・治療が行える様になりました。膵胆道系内視鏡・気管支鏡領域においても様々な治療内視鏡が可能な体制として診療を行っております。

また 2020 年 3 月より神奈川県／川崎市の COVID19 対応の重点医療機関として中等症患者の外来・入院診療を行ってきました。この中で内視鏡センターは COVID19 患者の緊急内視鏡にも対応し、2022 年 3 月までに 6 名の SARS-CoV-2 陽性確定患者と偽陽性患者に対して PPE 装着・陰圧室での緊急内視鏡を施行しました。

今後、地域がん診療拠点病院、臨床研修指定病院における内視鏡センターとして安全な内視鏡検査と最先端の内視鏡診断治療を提供すべく進歩発展に努める所存です。皆様のご支援・ご指導をお願い申し上げます。

(文責 内視鏡センター所長 大森 泰)

6 MEセンター

MEセンターの業務は、血液浄化業務、医療機器管理業務、心臓血管カテーテル業務、ペースメーカー業務、呼吸治療業務、集中治療業務、手術室業務になります。

2021 年度の組織図は、MEセンター長として麻酔科部長中塚医師、副センター長として腎臓内科部長滝本医師、職員として臨床工学技士(常勤6名、会計年度任用職員2名)計8名の体制でした。

2021年度の主な実績は、血液浄化業務 4269 件(前年比 84.9%)、医療機器管理業務 13020 件(前年比 97.4%)、心臓血管カテーテル業務 73 件(前年比 29.6%)、ペースメーカー業務 451 件(前年比 133.0%)となりました。臨床業務・医療機器管理業務において、ほぼ前年度を下回る結果となり、新型コロナウイルスの影響を引きずる1年となりました。MEセンターは今後も医療機器を通じ貢献してまいります。

(文責 臨床工学技士 千葉 真弘)

7 透析センター

2021 年度は 6 月に坂東和香医師が退職、7 月に一條真梨子医師が入職され、腎臓内科常勤医 3 名で診療業務を行うとともに、初期研修医・後期専攻医の指導にあたりました。後期専攻医としては野口遼医師(D5)と殿村駿医師(D4)が一年間、山下博美医師(D4)が 4 月から三ヶ月間、腎臓内科の研修を行いました。

看護師については 7 西病棟と一部共同での担当となり、臨床工学技士については前年度に続き常勤 6 名、臨職 2 名の体制で臨みました。

血液透析ベッドは計 20 床(うち個室 3 床)で、午前クールは一般の血液透析を行い、午後クールは新型コロナウイルス感染症患者さんの透析を行いました。センター外では、出張透析機器 1 台により急性血液浄化療法に対応しました。腹膜透析患者様の定期受診や緊急時対応についても、並行して行いました。2021 年度の新規透析導入数は 28 例(うち腹膜透析導入 2 例)でした。リウマチ科や消化器科、神経内科、血液内科、皮膚科、外科といった関係各科とも連携し、延べ血漿交換 7 件、腹水濃縮静注 9 件を施行いたしました。透析センターでの延べ血液透析・急性血液浄化療法施行数は 4269 件、腹膜透析患者数は 9 名でした。

前年度に引き続き、腎臓内科病棟と透析センターでのカンファレンスを合同で行うことにより病棟とセンター間での情報共有・連携を充実させ、診療の質の向上を図っています。関連学会・研究会に参加しながら、スタッフのスキルアップを図っています。透析導入が近づく CKD 患者さんに対し、透析センターの看護師を中心に腎代替療法選択指導を行っております。透析患者さんに対して、管理栄養士より定期的な栄養指導も行っております。

チーム医療・地域連携の充実を図り、地域医療に少しでも貢献していければ幸いです。

(文責 腎臓内科部長 滝本 千恵)

8 集中治療室

平成 28 年 8 月からハイケアユニット(HCU)として運用されてきた集中治療室ですが、2021 年度は新型コロナウイルスの影響がある程度落ち着いたにもかかわらず全入室患者数 485 人(術後 317 人 65%)と絶対数が前年度(491 人)より 1.2%減少し、総延べ患者数は 1156 人と前年度(1249 人)より 7.4%の減少となっています。ただその中でも必要度を満たす割合は 90%(基準は 80%以上)と十分満たしています。平均稼働率は 40%(最低が 5 月の 15%、最高が 1 月の 57%)で、昨年(42%)よりやや減少しました。

2022 年度は入院時重症患者対応メディエーターにより、患者・患者家族が治療方針を理解し意向表明をできるよう支援を始めます。

(文責 麻酔科部長 中塚 逸央)

9 手術部

2021 年度の循環器内科および放射線診療科を含む総手術件数は 1832 件(前年度比 98%)、外科系手術のみの件数は 1720 件(前年度比 110%)、そのうち麻酔科管理件数は 1182 件(前年度比 107%)と外科系手術において症例数の回復をみました。

2021 年 1 月より常勤麻酔科医不在の状態は解消され、川崎市立川崎病院麻酔科および慶應義塾大学医学部麻酔学教室からの応援医師とともに全身麻酔症例に当たっています。

(文責 麻酔科部長 中塚 逸央)

(1) ロボット手術センター

2021 年度のロボット手術は泌尿器科のみとなりました。

コロナ禍でもあり総件数は減りましたが、ロボット支援下の膀胱全摘を導入することが

出来ました。今後は腎部分切除や膀胱脱手術などの導入が課題となりました。

ロボット支援下前立腺全摘手術 39 件

ロボット支援下膀胱全摘手術 3 件

(文責 ロボット手術センター長 小宮 敦)

10 薬剤部

【人事】

2021 年 4 月 1 日付けで廣富匡志、沼田航遥が健康安全研究所へ転出し、田中友が健康安全研究所から転入、同日付けで武田夏子、山内聡子が新規採用されました。

2022 年 3 月 31 日現在の薬剤部スタッフは、常勤薬剤師 16 名、会計年度任用職員（臨時職員薬剤師）8 名です。

【内用・外用調剤業務】

院外処方箋の発行率は、ほぼ前年度並みの 91.3%でした。

院外処方の内容に関する疑義照会は原則として医師が対応していますが、医師が不在の場合には適宜薬剤部にて対応し、内容を電子カルテに記録しています。

新型コロナウイルス感染症の影響から院内処方において入院処方が減少し、前年度に比べ 1 日平均枚数で 6.6%の減少を認めています。

【注射調剤業務】

注射処方箋の枚数は、入院分が 7,820 枚/月、外来分が 1,283 枚/月でした。内用・外用処方同様、前年度と比較すると月平均枚数で入院は 12%、外来は 22%減少しています。

注射調剤は、注射薬自動払い出し装置を使用し、翌日分の患者個人別取り揃えを全病棟で実施しています。輸液については、250ml 以下の場合は個人別取り揃えを行い、250ml を超える場合は病棟毎に翌日 1 日分を注射薬カートに乗せて、払い出しを行っています。

【製剤業務】

ボスミン液やトリパンプルー等処置に使用する品目の他、アセトアミノフェン坐剤やリボトリール坐剤等、医師からの依頼による特殊製剤を調製しています。

院内製剤については、日本病院薬剤師会の提唱するクラス分類に基づき、新規使用申請時の院内手続きを定めています。

【薬剤管理指導業務】

調剤件数同様、新型コロナウイルス感染症の影響により 2021 年度の指導算定件数は、通常算定（325 点/件）3,442 件、ハイリスク算定（380 点/件）299 件、合計 3,741 件で、前年度と比較すると 21%減少しました。

昨年度は、7 西への薬剤師常駐効果により、薬剤管理指導料や退院時薬剤情報管理指導料の算定件数は増加に転じましたが、今年度は病棟担当薬剤師 2 名の異動と新型コロナウイルス感染症流行拡大による病棟閉鎖などの影響により、いずれの算定件数も減少

となりました。今後、病棟担当者の育成により常駐病棟を拡大し、これまで以上に患者サービスの充実を図り、病院経営貢献に寄与していきたいと考えています。

【無菌製剤業務】

高カロリー輸液の調製はクリーンフードを使用、抗がん剤の調製は 100%外部排気の安全キャビネットを 2 台使用して業務を行っています。年間のミキシング件数は、高カロリー輸液：1,024 件、抗がん剤 外来：2,502 件、入院：395 件でした。前年に比べ、高カロリー輸液のミキシング件数は 16.5%、抗がん剤のミキシング件数は外来が 35.3%、入院は 71.8%減少しました。

【持参薬鑑別】

2015 年 4 月から、電子カルテと連動した持参薬報告システムにより持参薬鑑別業務を行っています。2021 年度の鑑別件数は 283 件/月と、前年度と比べて 5%減少しました。鑑別については、薬の内容のみならず、薬剤師の目を通した様々な情報を電子カルテに反映させることで、持参薬の安全かつ適正使用を支援しています。

【チーム医療への参加】

ICT、AST、緩和ケアチーム、栄養サポートチームなどの専門医療チームや診療科カンファレンスに積極的に参加しています。

【医薬品情報業務】

院内医薬品集は年 1 回作成しており、2021 年度は 12 月に第 32 版を発行しました。原則月 1 回発行している「医薬品情報誌」には、厚生労働省からの医薬品安全性情報、薬事委員会報告、その他の各種情報を掲載しています。

院内で報告された副作用等についても、随時「医薬品情報誌」に掲載し、職員に周知しています。その他、緊急安全性情報や製薬会社からの緊急を要する製品情報に対しては、即時に対応・周知を行っています。

【医薬品管理業務】

薬剤部にて取り扱っている薬品は、内用薬・注射薬・外用薬・その他薬品（貯蔵品扱い）、検査試薬・血液製剤・アイソトープ（直購入品扱い）です。

定期購入医薬品数は、内用薬 490 品目、注射薬 442 品目、外用薬 191 品目、合計で 1,123 品目です。このうち後発品は内服薬 197 品目、注射薬 136 品目、外用薬 54 品目、合計 387 品目で、採用品目数における後発品の比率は 34.5%です。

【研修】

日進月歩の医療の進歩に遅れを取らないよう、知識・技能の習得に努めています。各種院内研修会への出席をはじめ、部内での勉強会も WEB を活用し薬剤に関する研修会を 6 回実施し、研鑽に努めました。

院外研修は主に WEB 形式で行われる研修会への参加となりましたが、神奈川県病院薬剤師会主催の研修会や、日本医療薬学会など薬学系学術大会に積極的に参加しました。

[実習生受入れ]

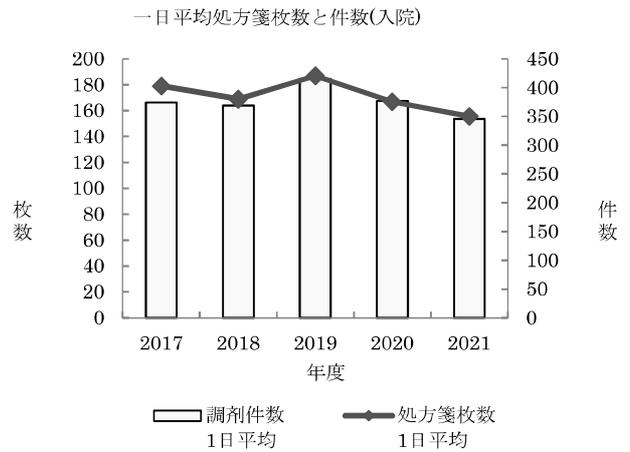
薬学部5年生を対象に、2010年度から11週間の長期実務実習を行っています。2021年度は、慶應義塾大学と横浜薬科大学より3名の学生を受け入れました。

(文責 副薬剤部長 小林 岳)

(1) 調剤業務 (内用・外用薬)

2021年度 処方箋枚数と調剤件数

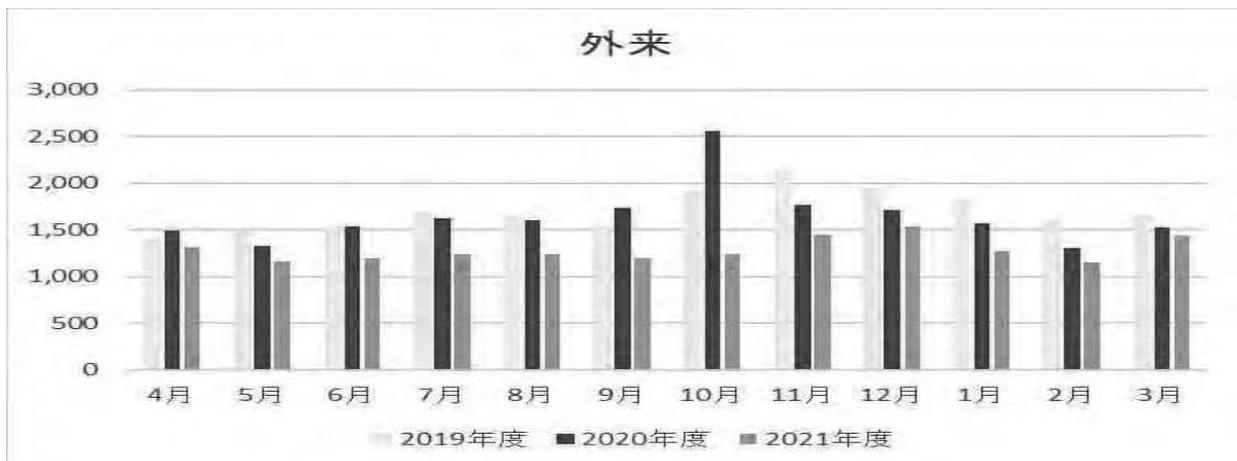
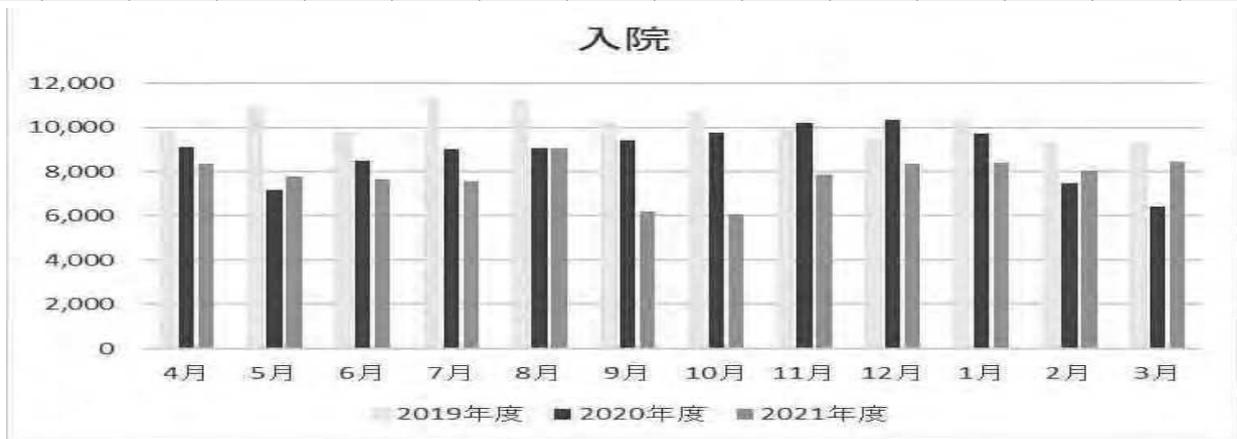
区分	外 来					入 院				
	処方箋枚数	一日平均	調剤件数	一日平均	日数	処方箋枚数	一日平均	調剤件数	一日平均	日数
4月	675	32	1,166	56	21	4,991	166	11,172	372	30
5月	580	32	1,035	58	18	4,267	138	8,977	290	31
6月	623	28	1,080	49	22	4,722	157	10,224	341	30
7月	680	34	1,238	62	20	4,627	149	10,031	324	31
8月	723	34	1,386	66	21	5,111	165	11,015	355	31
9月	597	30	1,079	54	20	3,869	129	8,363	279	30
10月	635	30	1,101	52	21	4,048	131	8,712	281	31
11月	615	31	1,104	55	20	4,797	160	10,559	352	30
12月	632	32	1,171	59	20	5,223	168	11,506	371	31
1月	662	35	1,146	60	19	4,819	155	11,016	355	31
2月	651	36	1,173	65	18	5,053	180	12,063	431	28
3月	692	31	1,308	59	22	5,210	168	12,392	400	31
計	7,765		13,987		242	56,737		126,030		365
月平均	647	32	1,166	58		4,728	156	10,503	346	



(2) 注射剤調剤業務

2021年度 注射処方箋枚数

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
入院	2019年度	9,820	10,951	9,766	11,242	11,225	10,197	10,735	9,898	9,509	10,383	9,305	9,309	10,195
	2020年度	9,095	7,159	8,504	8,994	9,070	9,409	9,770	10,195	10,325	9,736	7,460	6,401	8,843
	2021年度	8,342	7,762	7,664	7,570	9,066	6,211	6,087	7,880	8,348	8,390	8,061	8,461	7,820
外来	2019年度	1,397	1,496	1,537	1,695	1,652	1,538	1,907	2,122	1,939	1,835	1,604	1,663	1,699
	2020年度	1,486	1,323	1,531	1,617	1,599	1,736	2,557	1,767	1,704	1,572	1,303	1,523	1,643
	2021年度	1,309	1,163	1,189	1,235	1,241	1,193	1,232	1,450	1,536	1,268	1,145	1,430	1,283



(3) 製剤業務

2021年度 製剤作成量一覧

クラス分類	製剤名	規格	数量
【Ⅰ】	アクネローション	30ml/本	79
	20%塩化アルミニウム液	本	0
	鼓膜麻酔液	5ml/本	1
	トリパンブルー0.1%	1ml/本	35
	チオ硫酸ナトリウム軟膏10%	50g/個	0
	90%フェノール液	本	0
	ネオ・ブロー氏液	20ml/本	12
	内視鏡用1%ヨウ素ヨウ化カリウム液	150ml/本	48
	モース氏ペースト	個	34
	モノクロ酢酸	本	2
	0.1%モルヒネゲル(麻薬)	個	0
	SADBEアセトン 2%	mL	70
	SADBEアセトン 1%	mL	100
	SADBEアセトン 0.1%	mL	100
	SADBEアセトン 0.01%	mL	100
	SADBEアセトン 0.001%	mL	100
	SADBEアセトン 0.0001%	mL	100

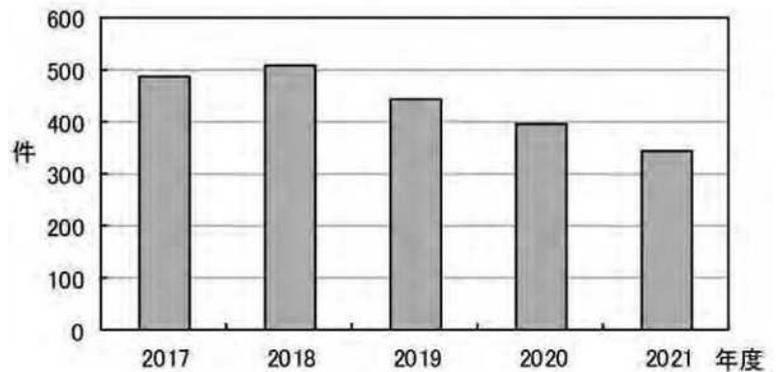
クラス分類	製剤名	規格	数量
【Ⅱ】	アルペカシン点眼	5ml/本	24
	ミカファンギン点眼液0.25%	5ml/本	24
	ポリコナゾール点眼液	5ml/本	12
	クロルヘキシジン点眼液(0.05%)	5ml/本	0
	4%酢酸	500ml/本	120
	1%ピオクタニン液	20ml/本	20
	チラーヂンS坐剤50μg	個	103
	チラーヂンS坐剤100μg	個	104
	エスタゾラム坐剤3mg	個	40
	リボトリール坐薬0.5mg	個	383
	リボトリール坐薬1.0mg	個	316
クラス分類	製剤名	規格	数量
【Ⅲ】	NMD点眼液	3ml/本	219
	3000倍ボスミン液	60ml/本	259
	5000倍ボスミン液	100ml/本	65

(4) 薬剤管理指導業務

年度別薬剤管理指導算定件数 (平均件数/月)

年度	平均件数/月
2017	487
2018	512
2019	444
2020	395
2021	312

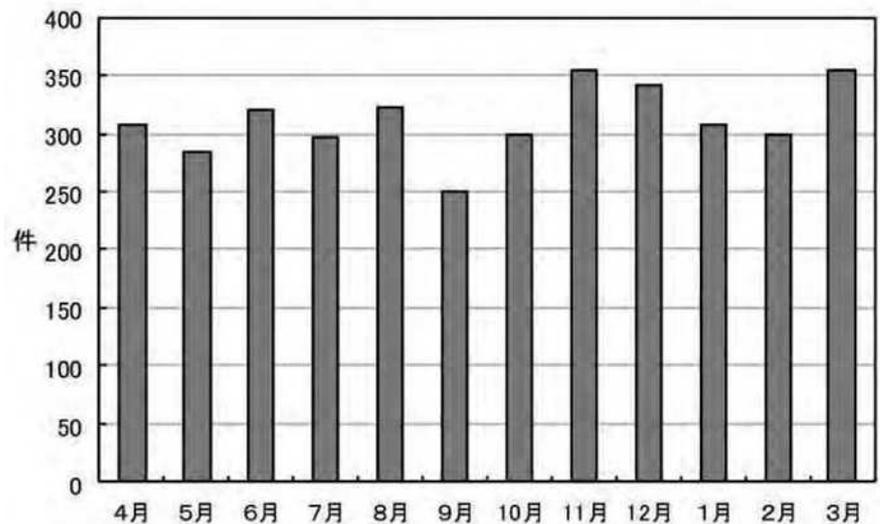
1ヶ月の平均薬剤管理指導算定件数



2021年度 月別薬剤管理指導算定件数

	月別件数
4月	307
5月	285
6月	320
7月	297
8月	323
9月	251
10月	299
11月	355
12月	341
1月	308
2月	300
3月	355
合計	3,741

月別薬剤管理指導算定件数



(5) 無菌製剤処理業務

①中心静脈(TPN)混注業務

月	混注件数	稼働日数	1日平均件数
4月	123	21	5.9
5月	90	18	5.0
6月	79	22	3.6
7月	85	20	4.3
8月	110	21	5.2
9月	56	20	2.8
10月	38	20	1.9
11月	103	20	5.2
12月	67	20	3.4
1月	26	19	1.4
2月	121	18	6.7
3月	126	22	5.7
合計	1024	241	
月平均	85	20	

②抗がん剤混注業務

	混注件数						1日平均		稼働日数
	外来		入院		合計		人数	件数	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	
4月	181	238	33	36	214	274	10.2	13.0	21
5月	182	248	25	28	207	276	11.5	15.3	18
6月	192	256	23	35	215	291	9.8	13.2	22
7月	171	215	32	46	203	261	10.2	13.1	20
8月	169	213	32	45	201	258	9.6	12.3	21
9月	166	211	22	26	188	237	9.4	11.9	20
10月	157	191	20	23	177	214	8.9	10.7	20
11月	136	168	11	16	147	184	7.4	9.2	20
12月	153	193	28	34	181	227	9.1	11.4	20
1月	145	181	16	22	161	203	8.5	10.7	19
2月	145	179	31	39	176	218	9.8	12.1	18
3月	161	209	38	45	199	254	9.0	11.5	22
合計	1958	2502	311	395	2269	2897	9.4	12.0	241
月平均	163	209	26	33	189	241			